

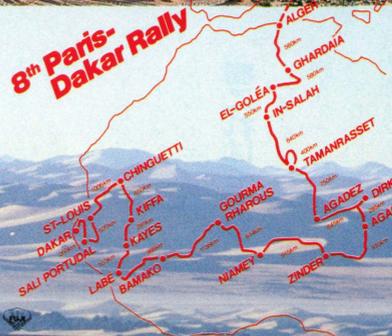


# PARIS-DAKAR 15,000

# 栄光への挑戦

カラー作品 1986年度作品

監督・脚本/原田真人 音楽/宇崎竜童 主題歌/「愛のビクトリー」唄/大野えり(東芝EMI) 撮影/阪本善尚・松前次三・中井正義  
録音/井上秀司 効果/浦田和治 編集/山地早智子 レーシングチーム/A・C・P 製作協力/㈱イビザ/オフィス・ヘンミ  
写真集「褐色の無一パリのダカールに賭けた男達の記録」永岡書店刊 主催/T・S・O 製作/田中プロモーション 配給/松竹富士株式会社



## 魂に点火しろ。

## 人も砂漠も、生きていた。

1986年、第8回パリ・ダカールラリーの全貌。これは今世紀最大のアドベンチャー・ロマンだ。  
鮮烈な映像がとらえた人生のエクスタシー。



PARIS-DAKAR 15,000

# 栄光への挑戦

■製作/田中プロモーション ■配給/松竹富士株式会社 (カラー作品)



## ■パリ・ダカ世界初の劇場用映画!

「苛酷」で知られる「パリダカ」をリアルタイムでとらえた世界で初めて劇場用映画として公開する驚異のドキュメンタリーが誕生した。

通称「パリダカ」と呼ばれる「パリダカール・ラリー」は、パリからアフリカ西海岸のセネガルの首都ダカールまで、15000キロを22日間で走破する世界最長のオフ・ロードラリー。華麗さで知られるヴェルサイユ宮殿からスタートした競争車は、フランスを南下しフェリーでアルジェリアに渡り、一転して不毛のアフリカの地をひたはしる。行く先には待ち受けるのは、灼熱の砂漠、巨大な岩石、そして河……。暑さと渇き、そして時には飢えにさいなまれながらのラリーは人にとっても車にとっても極限への挑戦である。ドライバーには、強靱な肉体は勿論のこと、それ以上に強い精神力が要求される。カーレースというよりは、サバイバルと呼んだ方がピッタリの「パリダカ」だ。

ドライバーたちは何を求めて、どのようにしてこの苦しいレースを闘いぬくのか……

## ■これはモータースポーツではない!

それを見極めようと企画されたのがこの映画なのである。単にレースの興奮を伝えるだけでなく、レースに賭けるドライバーたちの内面までフィルムにおさめようということで俊英・原田真人監督は阪本善尚カメラマンと共にプレス車に乗り込み、横田紀一郎率いる日本チームACCPに同行。サバイバル・レースを同時体験することに成功した。

## ■世界一過酷なラリー!

1986年1月1日、7時30分にスタート

した第8回パリダカール・ラリーは、参加がオートバイも含めて488台。そのうち、完走したのが100台だけで、これまで最も成績が悪かった。それだけに苛酷さは、いつにも増して凄まじいものだったが、おもしろいがない事故によりドラマチックなものになった。

そのひとつが、オーガナイザーのテイエイ・サビエラのヘリ事故による死である。不可能に挑戦してパリダカを創設した36才のサビエラの突然の死は、ドライバーたちに大きなショックを与えた。

そして、ACCPチームにとっては、準メンバーだったバイクの金子靖雄の事故死である。金子の死は、レースがスタートしたその夜に起きた。リーダーとしてその処置に苦悩する横田。動揺を隠しきれないメンバーたち。それぞれの人間性を剥き出しにした葛藤が展開される。フィクションでは決して描くことのできない人間模様がとらえられている。加えて、日本人ドライバーとドイツ人ナビゲーターの衝突と確執——ダカールの海岸をめざして不毛の地を走る車の中、その道程では、思いもかけなかったような人間ドラマが次々と登場してくる。

2輪駆動のカロラ2台に、ランクル車2台をつらねて参加したACCPチームは、果たして15000キロを時間内に走破出来るのか——。

リアルなスリルをタテ軸に、このドキュメンタリーはドラマチックな展開をみせてゆく。砂煙をまきあげて走る車。汗まみれ砂まみれになってハンドルを握る男達をとらえたパワフルな描写や、夕陽に染まるアフリカの大地や青く輝くダカールの海の情景の優しさなど映像も大いにたのしめる。

また、サビエラをはじめ、クロード・ブラッスール、ジャッキー・イクスなど花形レーサー達が次々に登場してくるあたり、モーターファンにとってはたまらない楽しみであろう。

## ■監督が燃えた! 音楽も燃えた!

この命懸けのドキュメンタリーフィルムの監督を、日独合作の異色作『ウィンディー』以来4年ぶりにメガホンを握る原田真人が、撮影にはプレス車に乗り込んだ阪本善尚が、その他にサポートのランクル車に松前次二が乗り込んでBカメラを、観光用ランクル車に中井正義が乗りCカメラをと、それぞれが担当。また音楽には、自らもミュージックなライダーとして活躍している宇崎竜童が担当。パリダカへの憧れは異常な程で、この映画ではナレーションにも挑戦しているという熱のいれようである。

# 5月17日(土)爆走ロードショー!

## 特別ご鑑賞券 ■一般 ¥1200(当日/一般 ¥1500のところ) 好評発売中! ■学生 ¥1100(当日/学生 ¥1300のところ)

渋谷東急文化会館1F  
パンテオン (407)  
7219

新宿歌舞伎町・コマ劇場前  
ミラノ座 (202)  
1189

日曜 10:00 平日 12:00 2:15 4:30 6:45

セントラルプラザ・十字屋間入る  
千葉劇場 (27)  
4591